

EU



1 農・畜産業の概況

EUは、加盟国（2016年時点28カ国）全体で国土全体の約4割となる1億7334万ヘクタールの農用地面積を有し、農業経営体数は1047万戸、1戸当たり農用地面積は16.6ヘクタールである（表1）。2017年のGDPに農林水産業が占める割合は1.2%であった。

2017年の農業生産額は、4155億8508万ユーロと前年を6.1%上回った。このうち、約4割に

相当する1762億1554万ユーロを畜産が占めており、EU農業の主要部門となっている（図1）。畜産の内訳を見ると、生乳が594億1511万ユーロ（農業全体の14%）、牛肉・子牛肉が335億9601万ユーロ（同8%）、豚肉が391億3910万ユーロ（同9%）、卵・家きんが316億9026万ユーロ（同8%）となっている。

表1 主要農業経済指標

国名／区分	農用地面積 (千ヘクタール)	農業労働人口 (千人)	農業経営体数 (千戸)	1戸当たり 農用地面積 (ヘクタール)	農業生産額 (百万ユーロ)
	2016年	2016年	2016年	2016年	2017年
ベルギー	1,354.3	55.4	36.9	36.7	8,349.6
ブルガリア	4,468.5	248.0	202.7	22.0	4,096.1
チェコ	3,455.4	103.3	26.5	130.2	4,916.8
デンマーク	2,614.6	49.5	35.1	74.6	10,944.5
ドイツ	16,715.3	490.1	276.1	60.5	55,319.7
エストニア	995.1	19.9	16.7	59.6	847.8
アイルランド	4,883.7	160.8	137.6	35.5	8,476.4
ギリシャ	4,553.8	448.2	685.0	6.6	10,646.8
スペイン	23,229.8	801.2	945.0	24.6	49,449.5
フランス	27,814.2	708.2	456.5	60.9	71,005.2
クロアチア	1,563.0	159.4	134.5	11.6	2,139.0
イタリア	12,598.2	875.0	1,145.7	11.0	50,683.3
キプロス	111.9	16.7	34.9	3.2	696.3
ラトビア	1,930.9	76.9	69.9	27.6	1,289.9
リトアニア	2,924.6	148.4	150.3	19.5	2,785.8
ルクセンブルク	130.7	3.4	2.0	66.3	393.1
ハンガリー	4,670.6	391.7	430.0	10.9	8,241.5
マルタ	11.1	5.1	9.2	1.2	115.1
オランダ	1,796.3	147.2	55.7	32.3	28,138.4
オーストリア	2,669.8	101.7	132.5	20.1	6,908.2
ポーランド	14,405.7	1,649.4	1,410.7	10.2	25,507.9
ポルトガル	3,641.7	313.8	259.0	14.1	7,435.6
ルーマニア	12,502.5	1,587.7	3,422.0	3.7	15,897.0
スロベニア	488.4	80.0	69.9	7.0	1,163.2
スロバキア	1,889.8	46.7	25.7	73.6	2,267.0
フィンランド	2,233.1	79.1	49.7	44.9	3,764.0
スウェーデン	3,012.6	56.0	62.9	47.9	6,135.3
英国	16,673.3	285.8	185.1	90.1	27,972.2
EU28カ国	173,338.6	9,108.1	10,467.8	16.6	415,585.1

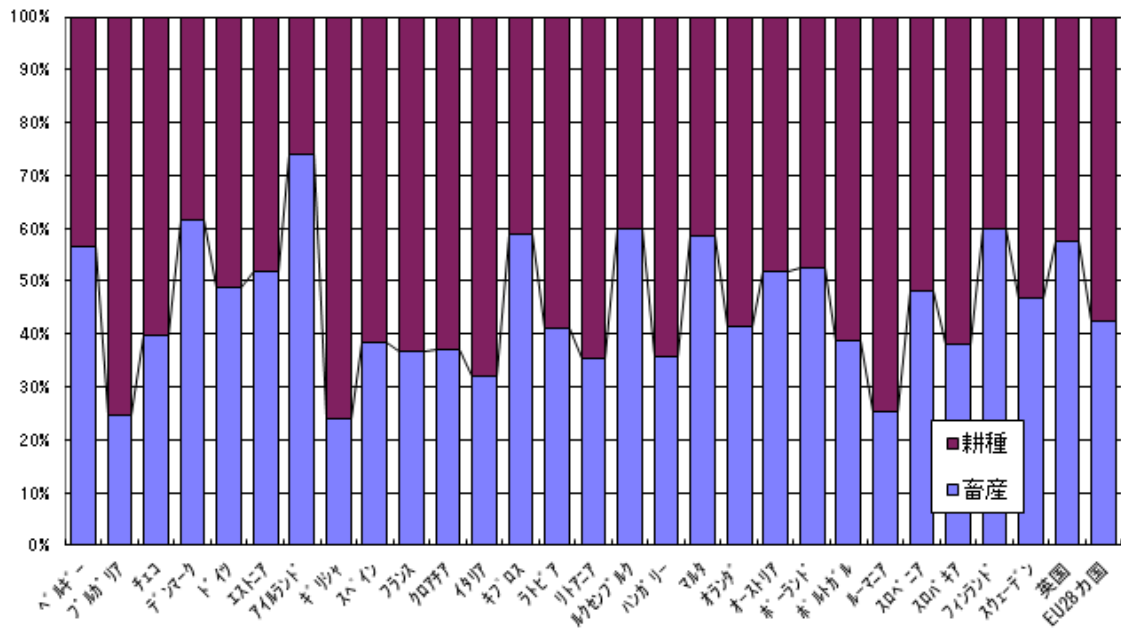
資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：EU28カ国の農用地面積、農業労働人口、農業経営体数は、各国の数値の合計。

2：1戸当たり農用地面積は、農用地面積および農業経営体数から算出。

3：農業労働人口は、年単位で直接雇用された農業労働者の人口。

図1 農業生産額に占める畜産のシェア（2017年）



資料：欧州委員会「Eurostat」

2 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

2017年のEU（加盟28カ国）の生乳出荷量は、全世界の約2割を占めている。EUは、牛乳・乳製品の自給率が114%と純輸出地域であり、国際乳製品市場に大きな影響力を持っている。

また、米国農務省（USDA）によると、2017年の世界の乳製品貿易量に占めるEUの割合は、チーズが42%となり、ロシアが2014年8月から実施している農畜産物の禁輸措置などの影響により2014年、2015年の輸出量は減少したものの、2016年、2017年は増加した。同じくバターは21%、脱脂粉乳は35%となった。

2015年3月末の生乳生産割当（クォータ）制度廃止を契機とし生乳の増産傾向が続いていた中、輸出環境の悪化から、EUの生乳と乳製品の需給は著しい緩和状態となった。この対応として欧州委員会は2016～2017年にかけて生乳出荷削減奨励事業を実施したほか、EU域外への輸出拡大、2015～2017年にかけて脱脂粉乳の公的買い入れの実施などを行い需給は改善した。なお、2017年の生乳出

荷量は前年比増となった。

低迷していた生乳生産者価格は、2016年後半以降上昇傾向で推移した。

① 主要な政策

ア 生乳生産割当（クォータ）制度

EUは、1984年以降、国ごとに生乳生産量の枠（クォータ）を割り当て、クォータを超過した場合、一定額の課徴金を課すとともに、加盟国内の農家間での売買などを認める生産割当（クォータ）制度を実施してきた。

同制度は、2008年11月に合意した「ヘルスチェック」（共通農業政策（CAP）の中間検証作業）に基づき、2015年3月末で廃止され、生産者は自由に生産できることとなった。

イ 乳製品の介入買い入れ

EUは、バターおよび脱脂粉乳の介入買い入れを通じた価格支持により、間接的に生乳生産者価格を支持している。介入価格は、2003年のCAP改革に基

づき、段階的に引き下げられている。

バターは、各年3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり221.75ユーロ）を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格のものを買い入れる。なお、当該年の介入買入数量が買入限度数量の5万トンに達した場合は、入札により買い入れが実施できることとなっている。

また、脱脂粉乳は、各年3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり169.80ユーロ）を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格のものを買い入れる。なお、当該年の介入買入数量が買入限度数量の10万9000トンに達した場合、入札により買い入れが実施できることとなっている。

脱脂粉乳の介入買い入れは、2015～2017年に行われ、介入在庫量は2017年12月末で約38万トンまで増加した。なお、バターについては2010年以降、17年までは行われていない。

ウ 民間在庫補助

2014年以降の新たなCAPでは、バター、脱脂粉乳およびチーズを対象に、大幅な価格の下落など欧州委員会が必要と認めた場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助が行われる。

2014年から2017年までで、民間在庫補助の対象となった脱脂粉乳数量は、約18万4000トンとなった。また、バターについては、約30万6000トンとなった。

エ 輸出補助金

EUには、乳製品の国際競争力を高め、輸出を促進するため、チーズ、バター、脱脂粉乳などの輸出に対して輸出補助金を交付する制度がある。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに販売・輸送コストなどを勘案して設定される。

なお、2017年は、全ての乳製品で輸出補助金の発動はない。

オ 域内消費の促進

乳製品に関連した補助として、牛乳やチーズなどの学校給食用消費などに対する補助が行われている。

② 生乳の生産動向

ア 酪農経営体数

EUの酪農経営体数は、景気の低迷や大規模化などを背景として小規模層を中心に減少傾向にあり、2013年は148万戸と、前回調査（2010年）から15%減少した（表2）。

表2 酪農経営体数、乳用経産牛飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

（単位：千戸、千頭、頭/戸、%）

区分／年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
酪農経営体数	1,484.7	-	-	-	-	-
経産牛飼養頭数	23,468	23,559	23,594	23,525	23,311	▲ 0.9
1戸当たり経産牛飼養頭数	15.8	-	-	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：経産牛飼養頭数は、各年12月末現在のもの。

2：酪農経営体数は、2014年以降公表されていない。

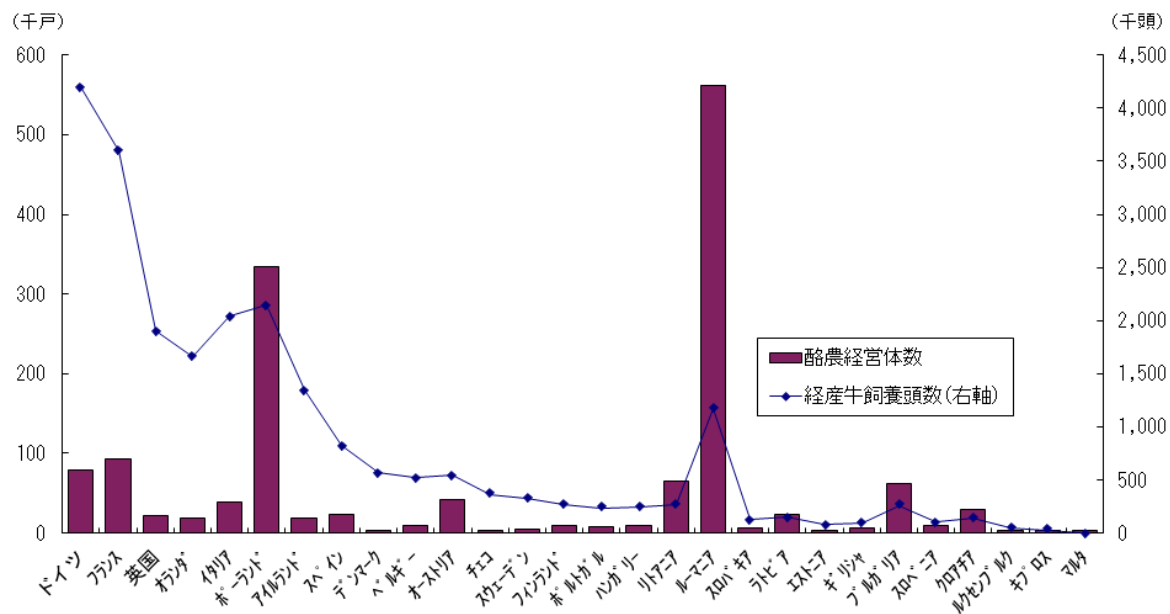
イ 飼養頭数

経産牛飼養頭数は、増産意欲の高まりから増加傾向で推移してきたが、生乳生産者価格の低迷を主因とした経産牛の淘汰により、2016年は減少に転じた。2017年は、主要国の一つであるオランダにおいて環境規制強化による頭数削減があり、前年比0.9%減の2331万頭となった。

国別で見ると、頭数の多い順に、ドイツ420万頭、フランス359万頭、ポーランド215万頭、イタリア204万頭、英国190万頭、オランダ167万頭、アイルランド134万頭となり、これら7カ国でEU全体の約7割を占める（図2）。

2013年の1戸当たり経産牛飼養頭数は15.8頭で、2010年から16%増加した。国別では、1戸当たり経産牛飼養頭数の最も多いのがデンマークの155頭であるのに対し、ルーマニアは2.1頭、ブルガリア、リトアニアはともに4.6頭であり、加盟国間の差が大きい。

図2 酪農経営体数（2013年）および乳牛飼養頭数（2017年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

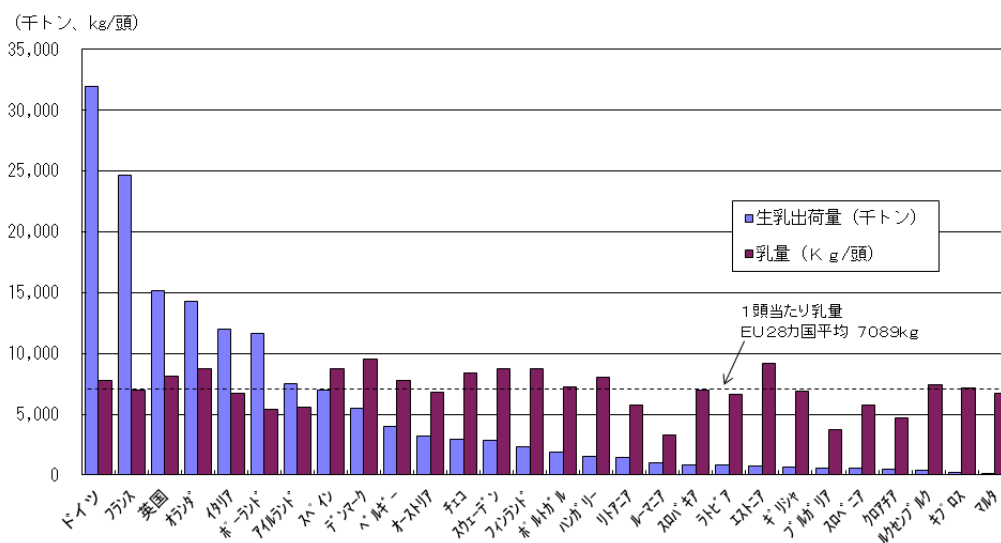
ウ 経産牛1頭当たり乳量

2017年の経産牛1頭当たり乳量は、7089キログラムとなった。ただし、第1位のデンマークの9569キログラム、第2位のエストニアの9144キログラムに対し、下位にある東欧圏のブルガリア、ルーマニアはそれぞれ3000キログラム台となっており、加盟国間での差は大きい（図3）。

エ 生乳出荷量

2017年の生乳出荷量は、前年とほぼ同水準の1億5605万トンとなった。国別では、出荷量の多い順に、ドイツ3194万トン、フランス2463万トン、英国1515万トン、オランダ1430万トン、イタリア1195万トン、ポーランド1164万トンとなり、これら6カ国でEU全体の生産量の約7割を占める。

図3 生乳出荷量および経産牛1頭当たり乳量（2017年）



資料：AMI「Market Review Dairy 2019」

③ 牛乳・乳製品の需給動向

ア 飲用乳

2017年の飲用乳（乳飲料、ヨーグルトなどを含む）生産量（販売量）は3103万トンで、1人当たり飲用乳（同）消費量は平均で59.2キログラムと前年を下回った（表3）。

表3 1人当たり年間飲用乳消費量の推移

国／年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
ベルギー	49.3	51.8	49.7	46.3	46.8	1.1
ブルガリア	20.7	19.4	19.1	17.3	-	-
チェコ	60.4	59.7	60.1	60.1	61.2	1.8
デンマーク	90.8	89.9	87.8	86.6	87.6	1.2
ドイツ	53.3	54.7	52.8	52.6	52.2	▲ 0.8
ギリシャ	45.5	46.2	45.5	43.1	-	-
エストニア	122.3	118.5	101.1	98.1	104.4	6.4
スペイン	83.6	80.8	80.5	78.9	79.2	0.4
フランス	54.4	53.0	51.5	49.5	47.4	▲ 4.2
アイルランド	118.4	118.7	122.4	125.0	123.3	▲ 1.4
イタリア	53.5	50.7	50.2	48.7	47.5	▲ 2.5
クロアチア	63.6	67.4	72.3	72.6	71.5	▲ 1.5
ラトビア	37.6	39.5	38.4	44.1	45.7	3.6
リトアニア	32.0	33.7	33.5	36.8	35.7	▲ 3.0
ハンガリー	50.5	48.3	50.6	53.0	53.8	1.5
オランダ	47.6	45.5	49.3	49.4	42.0	▲ 15.0
オーストリア	76.9	76.7	76.4	76.6	77.4	1.0
ポーランド	39.4	38.6	39.2	39.0	39.8	2.1
ポルトガル	79.8	79.4	71.8	68.4	-	-
ルーマニア	13.0	14.3	15.1	15.9	-	-
スロバキア	49.4	48.5	48.0	46.3	46.4	0.2
フィンランド	131.4	128.6	125.4	120.0	113.9	▲ 5.1
スウェーデン	91.8	85.5	85.4	81.7	77.9	▲ 4.7
英国	106.4	103.9	105.0	102.0	104.6	2.5
EU28カ国	62.3	61.4	59.8	59.3	59.2	▲ 0.2

資料：AMI「Market Review Dairy 2019」

注1：2017年は暫定値。

イ バター

EUのバター生産量は、世界の生産量の2割以上を占める。

2017年のバター生産量（バターオイルを含む）は、前年比0.2%減の232万トンとなった（表4）。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国でEU全体の約4割を生産する（図4）。

2017年のEU域外輸出量は、生産量の減少と域内需要の高まりにより、同17.4%減の17万トンとなった。主な輸出先は、米国やサウジアラビア、中国となった。

表4 バター需給の推移

(単位：千トン、%)

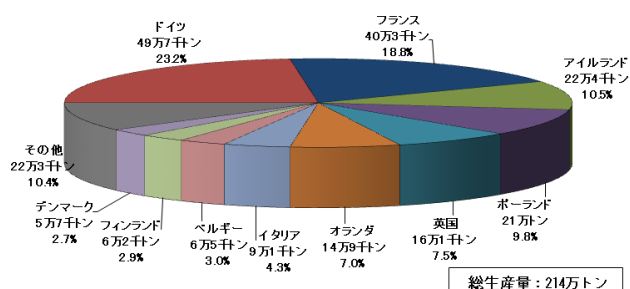
区分／年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
生産量	2,090	2,195	2,280	2,320	2,315	▲ 0.2
うち乳業工場	2,069	2,178	2,260	2,302	2,297	▲ 0.2
農家	21	17	20	18	18	0.0
輸入量	42	50	24	21	15	▲ 28.6
輸出量	128	148	178	207	171	▲ 17.4
在庫量（12月末）	95	125	135	115	106	▲ 7.8
域内消費量	2,009	2,067	2,116	2,154	2,168	0.6
1人当たり消費量（kg）	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2	0.0

資料：AMI「Market Review Dairy 2019」

注1：生産量にはバターオイルを含む。

2：2017年は暫定値。

図4 バターの国別生産量（2017年）



資料：AMI「Market Review Dairy 2019」

注：EU28カ国。

2017年のバター消費量は、前年比0.6%増の217万トンとなった。1人当たり消費量は、前年同の4.2キログラムとなった。国別では、フランス（8.0キログラム）、デンマーク（6.2キログラム）、ドイツ（6.0キログラム）、での消費が多い。一方、オリーブ油など植物油の消費が多いイタリア（2.6キログラム）などでは少ない（表5）。

表5 1人当たりバター消費量の推移

(単位: kg/人、%)

国/年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
ベルギー	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	▲ 4.3
ブルガリア	0.9	0.9	1.0	1.0	-	-
チェコ	5.0	5.1	5.5	5.4	5.0	▲ 7.4
デンマーク	3.9	4.9	5.0	6.3	6.2	▲ 1.6
ドイツ	5.8	5.7	6.1	6.1	6.0	▲ 1.6
ギリシャ	0.7	0.7	0.8	0.8	-	-
エストニア	1.5	2.2	1.6	2.7	2.7	0.0
スペイン	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3	▲ 25.0
フランス	7.7	8.4	8.2	8.2	8.0	▲ 2.4
アイルランド	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	0.0
イタリア	2.4	2.3	2.5	2.6	2.6	0.0
クロアチア	1.0	1.2	1.6	1.5	1.5	0.0
ラトビア	2.3	2.8	3.0	2.9	3.5	20.7
リトアニア	2.6	3.0	3.3	3.8	4.1	7.9
ハンガリー	1.0	1.2	1.6	2.2	2.5	13.6
オランダ	2.7	3.7	3.9	4.3	4.0	▲ 7.0
オーストリア	5.3	5.4	5.0	5.3	5.4	1.9
ポーランド	4.0	4.1	4.3	4.6	4.5	▲ 2.2
ポルトガル	1.7	1.9	1.8	1.8	-	-
ルーマニア	0.7	0.8	0.9	1.1	-	-
スロバキア	3.0	3.2	3.6	3.9	3.9	0.0
フィンランド	3.7	3.2	3.3	3.3	3.4	3.0
スウェーデン	2.2	2.3	2.5	2.5	2.4	▲ 4.0
英国	3.2	2.9	3.1	2.7	2.7	0.0
EU28カ国	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2	0.0

資料: AMI「Market Review Dairy 2019」

注1: 2017年は暫定値。

ウ 脱脂粉乳

EUの脱脂粉乳生産量は、世界の生産量の4割弱を占める。

2017年の脱脂粉乳生産量は、前年比0.7%減の168万トンとなった(表6)。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国で約5割を生産する(図5)。消費量は同5.9%増の95万トンであった。

脱脂粉乳については、低迷した需給の改善を目的に2015年7月から2017年9月までに行われた公的買い入れにより、公的在庫は2017年末には約38万トンまで積み上がった。なお、公的在庫は2016年12月から売り渡しが始まったものの、売り渡された量はわずかとなった。

EU産脱脂粉乳価格が低迷し、輸出市場で価格競争力を持ったことなどから、輸出は増加し、2017年のEU域外輸出量は、同34.7%増の78万トンとなった。主な輸出先は、アルジェリア、中国、インドネシア、フィリピン、エジプトなどとなった。

表6 脱脂粉乳需給の推移

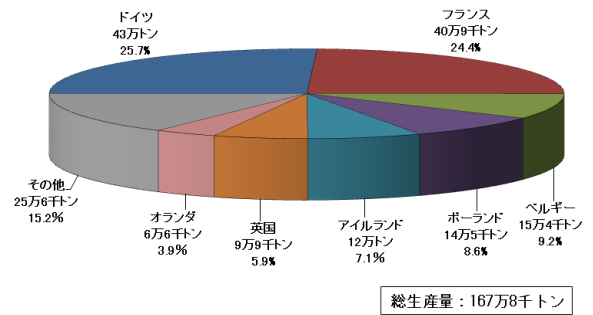
(単位: 千トン、%)

区分/年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
生産量	1,222	1,592	1,703	1,689	1,678	▲ 0.7
輸入量	5	2	3	4	2	▲ 50.0
輸出量	407	648	695	579	780	34.7
介入在庫量(12月末)	0	0	29	351	378	7.7
域内消費量	803	856	903	892	945	5.9

資料: AMI「Market Review Dairy 2019」

注1: 2017年は暫定値。

図5 脱脂粉乳の国別生産量(2017年)



資料: AMI「Market Review Dairy 2019」

注: EU28カ国。

エ チーズ

EUのチーズ生産量は、世界の生産量の約5割を占める。

2017年のチーズ生産量は、EU域内外の需要が強く、前年比2.3%増の1039万トンとなった(表7)。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国でEU全体の約4割を生産する(図6)。

表7 チーズ需給の推移

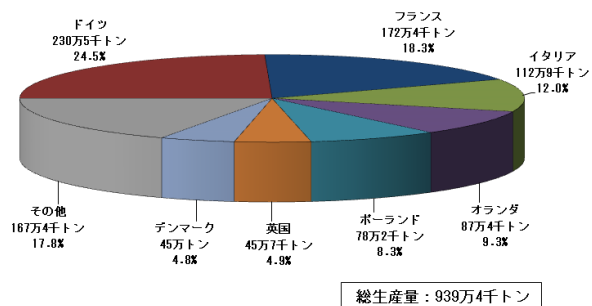
(単位: 千トン、%)

区分/年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
生産量	9,590	9,708	9,971	10,155	10,386	2.3
うち乳業工場(生乳原料)	8,772	8,868	9,024	9,190	9,394	2.2
農家(生乳原料)	105	105	105	105	105	0.0
その他(生乳原料)	713	735	842	860	887	3.1
輸入量	75	77	61	71	60	▲ 15.5
輸出量	788	722	720	801	830	3.6
域内消費量	9,122	9,253	9,505	9,707	9,896	1.9
1人当たり消費量(kg)	18.1	18.2	18.7	19.0	19.3	1.6

資料: AMI「Market Review Dairy 2019」

注1: 2017年は暫定値。

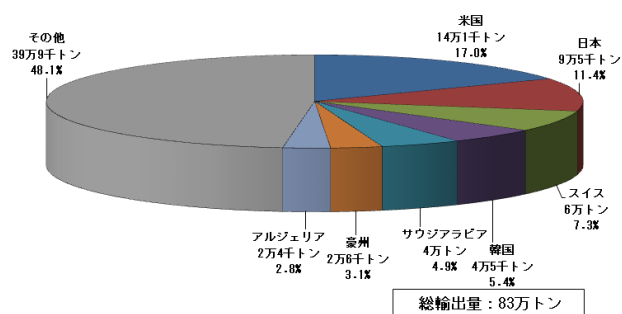
図6 チーズの国別生産量（2017年）



資料：AMI「Market Review Dairy 2019」
注1：EU28 カ国。
2：生産量のうち乳業工場生産分。

2017年のEU域外輸出量は、同3.6%増の83万トンとなった。主な輸出先は、輸出量の多い順に、米国（14万トン）、日本（9.5万トン）、スイス（6万トン）となっている（図7）。チーズは、2014年から始まったロシアの禁輸措置の影響が最も大きかった品目であったが、ロシアに代わり他の輸出先が増加した。

図7 チーズの輸出先国（2017年）



資料：AMI「Market Review Dairy 2019」
注：EU28 カ国。

チーズの消費量は増加傾向にあり、2017年は990万トンであった。1人当たりでは19.3キログラムであるが、加盟国間でかなりの差があり、フランス（26.4キログラム）、ドイツ（23.9キログラム）などで多い一方、スペイン（9.0キログラム）などでは少ない（表8）。

表8 1人当たりチーズ消費量の推移

（単位：kg/人、%）

国/年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
ベルギー	15.0	15.2	14.8	15.0	14.6	▲ 2.7
ブルガリア	16.4	15.8	15.6	15.7	-	-
チェコ	16.2	16.5	16.5	17.6	17.9	1.7
ドイツ	23.7	24.2	24.6	25.0	23.9	▲ 4.4
ギリシャ	21.9	21.9	21.7	23.1	-	-
エストニア	21.3	21.5	16.1	19.8	17.6	▲ 11.1
スペイン	9.5	9.6	8.9	9.1	9.0	▲ 1.1
フランス	26.2	26.7	26.9	26.6	26.4	▲ 0.8
アイルランド	10.8	11.2	13.8	8.6	-	-
イタリア	22.3	22.3	22.6	21.9	22.2	1.4
クロアチア	10.2	11.2	12.3	13.0	13.1	0.8
ラトビア	18.1	17.4	19.8	19.1	19.3	1.0
リトアニア	20.0	18.6	18.1	17.4	20.3	16.7
ハンガリー	11.0	11.6	12.9	13.3	13.5	1.5
オランダ	20.1	18.2	23.2	21.7	21.7	0.0
オーストリア	20.0	21.6	21.5	23.0	22.3	▲ 3.0
ポーランド	15.6	15.4	17.2	18.4	18.8	2.2
ポルトガル	9.8	10.5	10.9	11.3	-	-
ルーマニア	5.4	5.7	6.4	7.5	-	-
スロベニア	14.1	14.5	14.8	14.9	-	-
スロバキア	11.4	11.5	12.2	13.9	13.9	0.0
フィンランド	24.7	25.7	27.1	26.8	25.9	▲ 3.4
スウェーデン	19.7	20.6	21.2	20.6	20.0	▲ 2.9
英国	11.4	11.5	11.9	11.7	11.8	0.9
EU28カ国	18.1	18.2	18.7	19.0	19.3	1.6

資料：AMI「Market Review Dairy 2019」
注1：2017年は暫定値。

④ 生乳および牛乳・乳製品の価格動向

ア 生乳生産者価格

生乳生産者価格は、2015年3月末のクォータ制度廃止による生乳生産の増加により、2016年は前年比7.8%安となったものの、2017年は同23.1%高の100キログラム当たり34.15ユーロと回復した（表9）。

表9 生乳生産者価格の推移

(単位：ユーロ/100kg、%)

国／年	2013	2014	2015	2016	2017	変動率
ベルギー	37.22	36.00	27.93	26.70	35.05	31.3
ブルガリア	33.64	34.59	28.41	27.05	30.41	12.4
チェコ	31.73	33.02	27.20	23.97	31.46	31.2
デンマーク	38.63	39.67	31.03	28.83	36.90	28.0
ドイツ	37.51	37.58	29.29	26.73	36.19	35.4
エストニア	33.81	32.82	23.69	23.66	32.67	38.1
ギリシャ	44.42	43.18	41.84	38.65	38.79	0.4
スペイン	34.31	35.18	30.15	29.12	30.96	6.3
フランス	33.40	35.48	30.65	28.52	32.42	13.7
アイルランド	36.24	34.63	26.80	25.20	33.62	33.4
イタリア	39.56	40.77	35.08	33.58	37.40	11.4
クロアチア	32.28	34.28	29.17	25.75	34.08	32.3
キプロス	57.52	56.50	56.50	56.00	55.88	▲0.2
ラトビア	30.58	28.88	21.58	21.41	30.58	42.8
リトアニア	27.40	24.85	18.61	18.07	25.22	39.6
ハンガリー	32.45	33.35	25.73	23.56	30.26	28.4
オランダ	37.40	38.90	30.75	28.90	36.32	25.7
オーストリア	36.13	38.11	32.35	29.77	35.98	20.9
ポーランド	30.85	31.63	26.44	24.65	31.67	28.5
ポルトガル	33.55	34.86	29.66	28.02	29.68	5.9
ルーマニア	26.30	27.26	25.16	24.85	26.63	7.2
スロベニア	32.30	34.67	28.33	25.28	30.32	19.9
スロバキア	32.79	33.65	27.52	24.96	30.68	22.9
フィンランド	45.88	44.29	37.59	37.08	37.72	1.7
スウェーデン	39.60	38.64	31.54	30.70	37.94	23.6
英国	36.16	38.05	32.72	26.74	31.78	18.8
EU28カ国	35.90	36.60	30.10	27.75	34.15	23.1

資料：AMI「Market Review Dairy 2019」

注1：3.7%脂肪分のも。

ただし、フランスは3.8%、ドイツの2010年以降は4.0%脂肪分のも。

イ 飲用乳小売価格

EU最大の生乳出荷国であるドイツを見ると、全脂乳（乳脂肪3.5%以上）の小売価格は、1リットル当たり1.09ユーロ（前年比3.8%高）であった（表10）。

表10 ドイツの飲用生乳小売価格の推移

(単位：ユーロ/リットル、%)

区分／年	2013	2014	2015	2016	2017	変動率
全脂乳 (乳脂肪1.6%～3.5%)	0.70	0.74	0.65	0.62	0.75	21.0
全脂乳 (乳脂肪3.5%以上)	1.02	1.09	1.08	1.05	1.09	3.8
UHT牛乳 (乳脂肪1.5%以下)	0.62	0.68	0.59	0.56	0.68	21.4

資料：AMI「Market Review Dairy 2019」

ウ バター卸売価格

2017年のバター卸売価格（工場渡しまたは倉庫渡し）は、主要国で軒並み前年を大幅に上回った（表11）。

表11 主要国のバター卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国／年	2013	2014	2015	2016	2017	変動率
フランス	4.00	3.37	3.02	3.33	5.26	58.0
ドイツ	3.95	3.36	3.01	3.34	5.27	57.8
オランダ	3.91	3.31	2.96	3.26	5.22	60.1
英国	3.99	3.37	2.99	5.17	5.28	2.1
イタリア	3.83	3.39	2.98	3.24	5.19	60.2
ベルギー	3.97	3.34	3.00	3.28	5.23	59.5

資料：AMI「Market Review Dairy 2019」

注：工場渡しまたは倉庫渡しの価格で付加価値税は含まない。

エ 脱脂粉乳卸売価格

2017年の脱脂粉乳卸売価格（工場渡し）は、ドイツでは前年を上回ったものの、フランス、オランダ、ベルギーでは前年を下回った（表12）。

表12 主要国の脱脂粉乳卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国／年	2013	2014	2015	2016	2017	変動率
ドイツ	2.91	2.38	1.68	1.64	1.66	1.2
フランス	3.05	2.63	1.85	1.82	1.75	▲3.8
オランダ	3.03	2.58	1.81	1.80	1.75	▲2.8
ベルギー	3.11	2.69	1.90	1.84	1.78	▲3.3

資料：AMI「Market Review Dairy 2019」

注：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

オ チーズ卸売価格

2017年のチーズ卸売価格（工場渡し）は国・区分ごとに異なるが、主要国で軒並み前年を上回った（表13）。

表13 主要国のチーズ卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国・区分／年	2013	2014	2015	2016	2017	変動率
ドイツ エメンタール45%	5.33	5.56	5.38	5.47	5.75	5.1
英国 チェダー	3.90	3.78	3.25	3.06	3.67	20.1
ベルギー チェダー	3.74	3.49	2.79	2.83	3.47	22.6
イタリア グラナ・パダーノ	8.29	7.79	7.40	7.53	7.82	3.9
ポーランド エメンタール	3.72	3.92	3.26	3.20	3.75	17.2

資料：AMI「Market Review Dairy 2019」

注：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

(2) 肉牛・牛肉産業

2017年のEU（加盟28カ国）の牛肉生産量は、世界の生産量の約1割を占めている。

EUは気候・地理・歴史的条件に応じて、多種多様な品種の牛（肉用種、乳用種、乳肉兼用種）が飼養されており、牛肉の生産構造や牛肉に供する牛の種類（子牛、経産牛、去勢牛、雄牛など）は、国によってかなり異なっている。EUの牛肉自給率は、2001年には103%であったが、同年のBSE問題の再燃などにより生産量が減少傾向となり、2003年以降は牛肉の純輸入地域となった。その後も2013年にアイルランドで発覚した牛肉加工製品への馬肉混入事件の影響などによる消費者離れなどがあったが、BSE管理の徹底などにより輸出量を増加させるなどし、2010年以降、自給率は100%を超えて推移している（表15）。

EUは、酪農が盛んな地域であり、全体のと畜頭数のうち約3分の2が乳用種となっている。そのため、酪農部門の拡大や縮小といった動向が牛肉生産量に大きな影響を与える。2017年の牛肉生産量は前年比0.2%増となった。

① 主な政策

ア 介入買い入れ

2014年以降の新たなCAPでは、一加盟国または一加盟国の一部地域の市場のR3（形態および脂肪ともに中間に位置するに格付けされた雄牛）の枝肉の平均価格が、1トン当たり1890ユーロの介入価格を下回った場合、介入買い入れが検討される。なお2017年においては、介入買い入れは行われていない。

イ 民間在庫補助

EUでは、R3の枝肉参考価格を1トン当たり2224ユーロと定め、EU平均市場価格が参考価格を下回り、それが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが検討される。なお、2017年においては、民間在庫補助は発動されていない。

ウ 直接支払い

2003年のCAP改革により、生産にリンクした直接支払いは、原則廃止されたが、加盟国レベルで、生産維持を目的に生産とリンクした直接支払いを実施することは可能となっている。

エ 輸出補助金

EU産牛肉の国際競争力を維持し、輸出を促進するため、輸出補助金を交付できる仕組みがある。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに設定される。

なお、2017年においては発動されていない。

オ BSE関連対策

動物性たんぱく質の飼料利用の全面禁止、食肉に供される牛からの特定危険部位の除去などのBSE対策などが実施されている。講じられる対策の有効性を検証するため、BSEモニタリング検査などが実施されている。

② 肉牛の生産動向

ア 牛飼養経営体数

EUの牛飼養経営体数（乳用種を含む）は、大規模化などを背景として小規模層を中心に減少傾向にあり、2013年は228万戸と、前回調査（2010年）から13%減少した（表14）。

牛飼養経営体数は、2013年のEUの全農業経営体数（1084万戸）の約2割を占めていることから、農業経営体の約5分の1は何らかの形で牛を飼養していることになる。国別では、ルーマニア（64万戸）、ポーランド（42万戸）、フランス（18万戸）、ドイツ（13万戸）、アイルランド（11万戸）、イタリア（11万戸）が多い。

表14 牛（乳用種を含む）飼養経営体数、飼養頭数および1戸当たりの飼養頭数の推移

（単位：千戸、千頭、頭/戸、%）						
区分/年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
牛飼養経営体数	2,279	-	-	-	-	-
飼養頭数	87,734	88,406	89,138	89,134	88,819	▲ 0.4
1戸当たり飼養頭数	38.5	-	-	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

2：牛飼養経営体数は、2014年以降公表されていない。

イ 飼養頭数

2017年12月時点の牛飼養頭数(乳用種を含む)は、前年とほぼ同水準の8882万頭であった(表14)。飼養頭数が多い国は、フランス1898万頭、ドイツ1228万頭、英国979万頭と続き、この上位3カ国でほぼ半数を占める(図8)。

2013年の1戸当たり牛飼養頭数は38.5頭で、2010年から15%増加した。種類別の牛飼養割合などは、加盟国間で違いがある(図9)。

図8 国別牛飼養頭数(2017年12月)

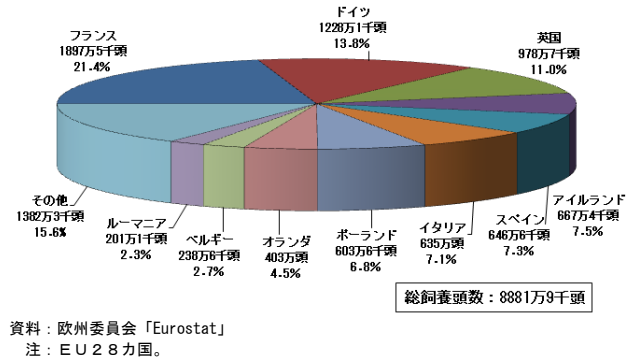
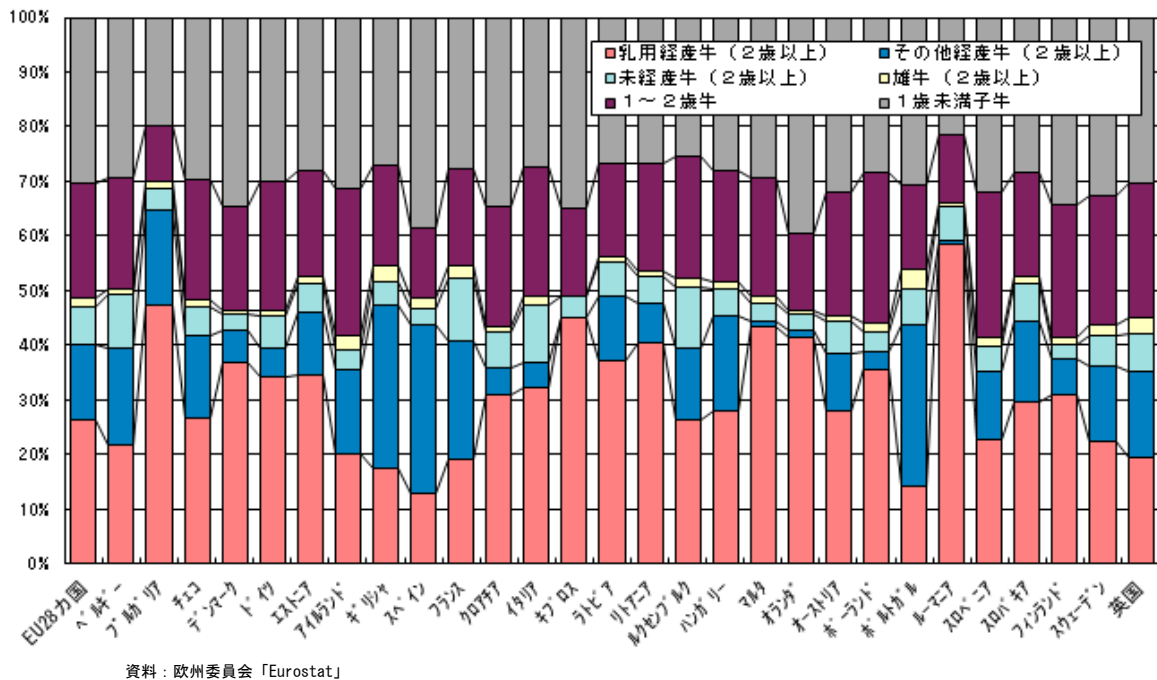


図9 国別種類別牛飼養割合(2017年12月)



③ 牛肉の需給動向

ア 牛肉生産量

2015年3月末の生乳生産割当(クォータ)制度の廃止を見越して酪農部門の飼養頭数が拡大していた中、2016年は、生乳生産者価格の低迷を主因として経産牛の淘汰が進んだことから、2016年の牛肉生産量は、前年比2.5%増となった。2017年は、乳価の回復から乳用雌牛の肉牛部門への供給が減少し、同0.2%増の787万トン(枝肉換算)と前年同水準となった(表15)。

表15 牛肉需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
生産量	7,378	7,541	7,657	7,851	7,869	0.2
輸入量	304	308	300	304	285	▲6.3
輸出量	161	208	211	248	271	9.0
消費量	7,521	7,641	7,747	7,907	7,883	▲0.3
1人当たり消費量(kg)	10.4	10.5	10.6	10.8	10.8	▲0.5
自給率(%)	99.5	100.2	101.1	102.1	102.8	0.7ポイント

資料：欧州委員会「Short Term Outlook for EU arable crops, dairy and meat markets - Autumn 2019」

注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。

注2：輸入量および輸出量は生体牛を除く。

注3：自給率は、と畜牛の枝肉生産量から枝肉換算した生体牛の輸出入量を差し引きして算出した生産量と、消費量から算定。

イ 輸入および輸出

基本的にEUの牛肉市場は需給均衡型である。

輸入では、ガット・ウルグアイラウンド合意に基づき、さまざまな関税割当や近隣国との特惠制度が設け

られている。2017年のEU域外からの輸入量は前年比6.3%減の29万トン（枝肉換算）となった。主な輸入先は、ブラジル、アルゼンチンなどである。

輸出は、2001年のBSE問題の再燃や2002年2月の口蹄疫の発生により、一時的にEU産牛肉の禁輸措置が講じられたことで長年にわたり減少傾向で推移してきた。しかし、2014年に、最大の輸出先であったロシアによる禁輸措置が講じられたことから、ロシアに代わる市場として東南アジアや中東、アジアや北アフリカ諸国への輸出を増やした結果、2017年は同9.0%増の27万トン（枝肉換算）となった。

ウ 消費

消費量は、2014年以降増加で推移していたものの、2017年は前年比0.3%減の788万トンと減少した。1人当たり年間消費量も同様の傾向となっており、2017年は同0.5%減の10.8キログラムとなった（表15）。

④ 肉牛・牛肉の価格動向

2017年の牛枝肉卸売価格は、雄牛で前年比3.3%高、去勢牛で同1.1%高となった（表16）。

表16 牛枝肉卸売価格の推移

（単位：ユーロ/100kg、%）

年／区分	牛枝肉卸売価格			
	雄牛		去勢牛	
		変動率		変動率
2013	377.9	▲ 1.0	437.0	7.0
2014	368.1	▲ 2.6	411.9	▲ 5.7
2015	372.9	1.3	447.1	8.5
2016	364.5	▲ 2.2	398.6	▲ 10.8
2017	376.4	3.3	402.9	1.1

資料：欧州委員会「CIRABC」

(3) 養豚・豚肉産業

2017年のEU（加盟28カ国）の豚肉生産量は、世界の生産量の約2割を占めている。

EUの豚肉自給率は110%前後で推移しており、純輸出地域である。中でも、わが国の主要な豚肉輸入元であるデンマークは、EU全体の輸出量の15%程度を占める。EUでは、加盟国間で差があるものの、全体的に見ると食肉消費量に占める豚肉の割合は牛肉、

鶏肉、羊肉と比べると最も大きい。

EUの豚肉生産は、2007年、2012年の飼料価格の高騰などの影響を受け、増産と減産を繰り返している。2011年および2012年は、2013年のアニマルウェルフェアに関する規制の完全施行に対応するため、一時的に生産は減少したが、2014年以降は、生産構造の変化により生産性向上が図られたことで、増加傾向となっている。規制内容は、具体的には、妊娠豚のストール飼いの禁止であり、繁殖母豚の飼養面積の拡張のために豚舎の増改築などの対応を必要とするものである。これにより、対応できない小規模農家では経営を中止したり、繁殖、肥育の分業化、統廃合などが行われたりするなど、業界全体で生産構造の変化の動きが活発になった。

① 主な政策

ア 民間在庫補助

EUでは、標準的な豚（クラスEまたはR）の枝肉参考価格を1トン当たり1509.39ユーロと定め、EU平均市場価格が参考価格を下回り、それが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが検討される。

2015年3月には、前年2月のロシアの禁輸措置に伴い需給が緩和したことから、3月に民間在庫補助が発動され、約6万トンの豚肉が市場から隔離された。また、2016年1月には、季節的な要因やロシア禁輸措置の影響などから発動され、約9万トンの豚肉が隔離された。なお、2017年は発動されていない。

イ 輸出補助金

EU産豚肉および加工品の国際競争力を高め、輸出を促進するため、輸出補助金を交付できる仕組みがある。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに設定される。

なお、2017年の発動はない。

② 肉豚の生産動向

ア 養豚経営体数

EUの養豚経営体数は、飼料価格の高騰、アニマル

ウェルフェアの規制強化などさまざまな要因を背景として小規模層を中心に減少し、大規模化や分業化が進む傾向にあり、2013年は、前回調査（2010年）から24%減少し、219万戸となった（表17）。

養豚経営体数は、2013年のEUの全農業経営体数（1084万戸）の約2割を占めていることから、全農業経営体の約5分の1は何らかの形で豚を飼養していることになる。養豚経営体数は、ルーマニア（128万戸）が圧倒的に多く、次いでポーランド（28万戸）、ハンガリー（13万戸）、クロアチア（8万戸）、リトアニア（6万戸）、スペイン（5万戸）となっている。小規模農家が中心となっている国で養豚経営体数が多い。

表17 養豚経営体数、飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

(単位：千戸、千頭、頭、%)

区分/年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
養豚経営体数	2,191	-	-	-	-	-
飼養頭数	146,242	148,331	148,716	147,188	150,257	2.1
1戸当たり飼養頭数	66.7	-	-	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

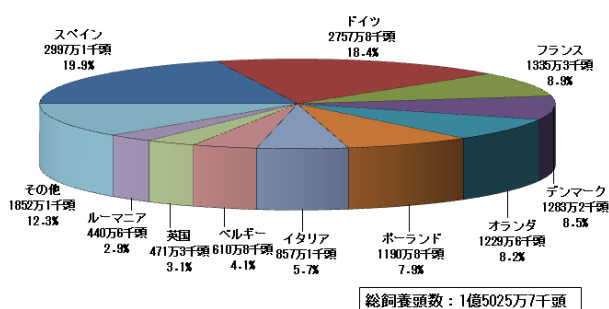
注2：養豚経営体数は、2014年以降公表されていない。

イ 飼養頭数

2017年12月時点の豚飼養頭数は、1億5026万頭（前年比2.1%増）となった（表17）。

飼養頭数は、EU全土に分布しているものの加盟国間で大きな差があり、スペイン、ドイツ、フランス、デンマーク、オランダ、ポーランドの6カ国で全体の約7割を占めている（図10）。上位2カ国のスペインとドイツのみで約4割を占めるが、特に、近年はスペインの伸びが顕著であり、2017年は同2.5%増となった。

図10 国別豚飼養頭数（2017年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

注：EU28カ国。

③ 豚肉の需給動向

ア 豚肉生産量

2017年の豚肉生産量は、前年比0.9%減の2366万トン（枝肉換算）となった（表18）。

表18 豚肉需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2013	2014	2015	2016	2017	増減率
生産量	22,555	22,737	23,436	23,866	23,660	▲0.9
輸入量	16	14	11	12	14	16.7
輸出量	2,238	1,948	2,218	2,813	2,574	▲8.5
消費量	20,333	20,803	21,229	21,065	21,100	0.2
1人当たり消費量 (kg)	31.3	32.0	32.5	32.2	32.1	▲0.1
自給率 (%)	111.1	109.5	110.5	113.3	112.2	▲1.0ポイント

資料：欧州委員会「Short term outlook for EU arable crops, dairy and meat markets - Autumn 2019」

注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。

注2：生産量は加工等に伴う損耗を考慮した数値。

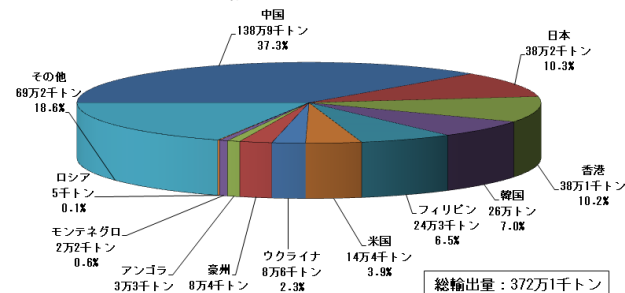
注3：自給率は、と畜豚の枝肉生産量から枝肉換算した生体豚の輸出入量を差し引きして算出した生産量と、消費量から算定。

イ 輸入および輸出

EU域外への輸出量（枝肉換算）は、特に、2016年に中国を中心としたアジア向けなどの輸出需要が拡大したことから前年比26.8%増となったが、2017年は中国向けが大きく減少し、同8.5%減の257万トンとなった。2014年からの禁輸により失われたロシア市場の代わりに、人口増加や経済成長を続け、需要の高まっているアジアやアフリカなどへの輸出が増加している（図11）。なお、EU域外への輸出量について輸出国別にみると、最大の輸出国はスペイン、次いでドイツ、デンマークとなり、これら上位3カ国で輸出量の6割を占めている。

なお、2017年のEU域外からの輸入量（枝肉換算）は、1万4077トン（前年比16.7%増）となった。

図11 豚肉の輸出先国（2017年）



資料：デンマーク農業理事会「STATISTICS 2018 Pigmeat」

注1：EU28カ国。

注2：製品重量ベース。

注3：生体、内臓肉、調製品などを含む。

ウ 消費

2017年の消費量は、前年比0.2%増の2110万トンとなった。

同年の1人当たり消費量は、同0.1%減の32.1キログラムとなった（表18）。

④ 豚肉の価格動向（豚肉の市場価格）

豚枝肉卸売価格は、加盟国の代表的な市場の加重平均価格をベースとして算出される。

2017年の枝肉卸売価格は、前年比10.1%高となった（表19）。主要生産国であるドイツ、デンマークでもそれぞれ同9.3%高、同8.7%高となった。

表19 豚枝肉卸売価格の推移

(単位：ユーロ/100kg、%)

年／区分	豚枝肉卸売価格					
	EU		ドイツ		デンマーク	
		変動率		変動率		変動率
2013	176.4	3.5	174.8	0.6	159.3	1.2
2014	156.4	▲ 11.3	158.4	▲ 9.4	146.0	▲ 8.3
2015	139.6	▲ 10.8	142.6	▲ 10.0	130.1	▲ 10.9
2016	146.0	4.6	151.8	6.5	136.8	5.1
2017	160.7	10.1	165.9	9.3	148.7	8.7

資料：欧州委員会「CIRABC」